代表者
林田

行政視察報告書

令和５年８月１０日

各会派代表者　殿

呉市議会議員　林田浩秋
桂山政孝
坂口一郎
田中みわ子
河原初海
佐伯祝一郎
片岡義行

次のとおり行政視察したので報告します。

１．視察期日

令和　５年　８月２日（水），３日（木），４日（金）

２．調査項目

兵庫県	尼崎市	「尼崎市立ユース交流センター」について
富山県	高岡市	高岡美術館について
石川県	金沢市	城北児童館について

３．参加議員
林田　浩秋，梶山　政孝，渡辺　一照，田中　みわ子，河原　初海，
佐伯　航一郎，片岡　慶行

４．随行者
なし

兵庫県尼崎市
■調査項目
「尼崎市立ユース交流センター」を中心とした若者を巻き込んだまちづくりについて

・調査対応者
尼崎市こども青少年局　こども青少年部長　　朴　志
尼崎市こども青少年局　こども青少年課長　　浅田　崇之
尼崎市こども青少年局　こども青少年課係長　福田　聡
市立ユース交流センター長（指定管理者）　　片岡　一樹
・調査期日
令和５年８月２日（水）１４時００分～１５時３０分

・尼崎市の概要
人口　：４６２，８２０人
世帯数：２３７，８０８世帯

・調査目的
ユースワークの視点に立った市内の青少年の居場所づくり事業の拡充に取り組み、様々な交流活動を通じて青少年の成長を支援する拠点施設となることを目的とする。
・調査内容
【尼崎市からの説明】
ユースセンターとは、学校でも家でもない、若者の居場所である。放課後や休日などの時間に若者が集い、ロールモデルとなる様々な人との出会い、いろいろなことにチャレンジしながら学ぶことができる場所である。ユースワークの主な目的は、若者の個人的および社会的成長と彼らの社会的包摂である。ユースワークは、若者が、享楽、挑戦、学習および達成を統合した非公式の教育的活動を通して自分自身、他者および社会について学ぶことを援助する。すなわち、知的、身体的、感情的、精神的なすべての形式において、若者の幸福と成長を提供するものである。年齢は１４歳～２９歳までの若者が参加し、計画を立て取り組んでいる。

【質疑応答】

Q　尼崎市として若者をどのような位置づけのもと、政策推進について（市の計画・施政方針や国の子供・若者育成支援推進、次世代育成支援との関係について）

A　総合計画について、本市の最上位計画である「第６次尼崎市総合計画」では、子ども・子育て支援の課題の一つとして「子どもや若者の声が社会に反映されるよう、意見表明などの権利を保障するとともに、大人が子ども・若者に権利について理解することが必要」とし、今後も引き続き、「ユースワーク」の視点を取り入れた取り組みを推進する。また、子どもの育ち支援条例についての説明がある。尼崎市ではすべての子どもが健やかに育つ社会を目指し、平成２１年に制定した。子どもの育ちを支える具体的な仕組みとして、子どもコミュニティソーシャルワーカー２名を配置し、居場所づくりに取り組んでいる。また、不登校、いじめやヤングケアラーなど、支援を必要としている子どもを早期に発見し、適切な支援につなげるため、教育委員会にスクールソーシャルワーカーを１０名配置し、関係者等との連携を図ることで、支援が必要な子どもヤングケアラーを早期発見し、具体的な支援につなげる。

Q　若者を巻き込んだまちづくりによって尼崎市にどのような変化があったか。

A　ユースカウンシル事業は、令和２年から実施し、現在までに、延べ約５０名の若者が事業に参加し、それぞれがテーマを持って活動している。市が若者の声を聞くことで、若者に影響のある政策に当事者の声を反映させ、若者政策の政策効果を高めるとともに、若者自身がまちづくりを自分こととして捉え、様々な社会課題に関して当事者意識が芽生えたことが変化であった。また、年に一度の発表会後は、助言等を踏まえて内容を見直し、活動を継続している。過去の取り組み事例の説明。

①「理不尽な校則について」市内の中学生から、校則について生徒、教師がそれぞれの校則の規定理由を理解し校則に納得することや校則のガイドラインの策定の提案、ガイドラインに項目に入れてほしいとの提案があった。市教育委員会として、校則の見直しに関するガイドラインの策定を行った。

②「児童虐待について」児童虐待を受けていた高校生が、実体験をもとに、児童虐待が減り、当事者が安心して助けを求めることができ、周囲も躊躇せず助けられる社会を目指したいという提案があった。市では、児童相談所の設置を予定しており、提案者は市の担当課と協力し、当事者の人権が保障されるための活動を行った。

③「スケートボード場の設置について」尼崎市内でスケートボードをしている高校生から、市内にスケートボード場を作ってほしいとの提案があった。市では、活動報告会後も提案チームとディスカッションを重ね、提案チームと共に近隣都市のスケートボード場への視察を行い、騒音の観点や他の公園利用者を確認するために社会実験を実施し、現在も設置に向けた意見交換を継続している。

Q　現在抱えている課題とこれからの取り組み展開について

Ａ　ユース交流センターは、市域の北東部に位置しており、公共交通機関の便もそれほど良くないことから、利用者については近隣の方が中心となっており、この点が課題である。現在、市内各地区にある地域振興センターでサテライト事業を実施しているが、地域によってイベント回数や内容に隔たりがあるため、居住地域にかかわらず市内の若者がユース交流センターの取り組みに関連下様々な事業に参加できるよう全市展開を図り、各地域においてユースワークが展開されていく必要がある。各地域振興センターと緊密に情報交換を行うとともに、各地域においてユースワークが展開されるようユースワーカーの育成に取り組んでいきたいとのことであった。

【呉市での展開の可能性】

呉市は、若者が集う場所や居場所がない状況である。若者を市内に取り込む取組を呉市が一体となって考える必要がある。まずは、ユース交流センターを設置することから始めなければならない。市内の廃校となっている小学校・中学校の施設の再利用を考える必要があるのではないか。

富山県高岡市

■調査項目

高岡市美術館について

・調査対応者

高岡市美術館副館長管理課長　　畑　雅弘
高岡市美術館学芸課長　　瀬尾　千秋
高岡市美術館学芸員　　鈴木　雅子

・調査期日

令和５年８月３日（木）１６時００分～１７時３０分

・高岡市の概要

人口　：１６４．７６３人
世帯数：７０．１２７世帯

・調査目的

市民にひらかれた美術館を目標に来館者にやすらぎを与え、何度でも足を運んでみたくなるような地域に密着した美術館とし、館の企画・奨励・推進による市民の作品の発表、講演や講習会の開催、美術館に関する情報の提供など、市民の幅広いニーズに対応できる美術館とすることを目的とする。

・調査内容

【高岡市美術館からの説明】

高岡市美術館は、２０２１（令和３）年に創立７０周年を迎えた。「美術・工芸の振興を図る」ことを目的に、地域産業・伝統工芸の振興・育成のための事業を開催してきた。

【質疑応答】

Ｑ　漫画家藤子・Ｆ・不二雄について

Ａ　高岡市藤子・Ｆ・不二雄ふるさとギャラリー展を前期２０２２年１２月１日から２０２３年５月２８日まで実施、後期２０２３年５月３１日から１１月２６日まで行っている。夏休みでもあり、多くの来館者がある。また、高岡市内で藤子・Ｆ・不二雄先生ゆかりの地のスタンプラリーも計画されている。

Ｑ　令和３年度の観覧者数について

Ａ　２１２日間で２６，８４９人の観覧者数で、中学生の企業実習受け入れや高岡工芸高等学校の生徒作品展示や運営を行っている。ちなみに藤子・Ｆ・不二雄観覧者数２２．５５７人とのことでした。

Ｑ　今後の取組展開について

Ａ　現代社会と果敢に向き合う展覧会を展開するべく企画を行い、これからのwith コロナの時代、令和の新たな文化行政のもと、過去から未来に向けて、文化発信のベース基地“cultural hub”としてどんな美術館をめざし、どんな役割を果たすべきなのかを考えて取り組んでいる。

【呉市での展開の可能性】

呉市立美術館がある呉市の幸町地区（青山クラブ・桜松館・入船山記念館・美術館）は、市民や観光客が歴史・文化・芸術に親しむことができる地区となっており、幸町地区の総合整備について一体的に検討を進めているところである。

しかし、青山クラブや桜松館については、建物が耐震基準を満たしていないため、耐震診断やニーズ調査等を行いながら、これまで活用方法についての検討を進めてきたところであり、呉の歴史・文化・芸術を学び、感じることのできる場としての機能の検討が行われている。

美術館を含む幸町地区総合整備を検討する際は、高岡市美術館のように、市民の幅広いニーズに対応できる美術館を目指し、回遊性の向上として、大和ミュージアム、呉駅、中央地区商店街等との各施設の連動性を図る必要がある。まだまだ途中経過ではあるが、早期に実現できるように前向きに検討していきたい。

石川県金沢市

■調査項目

城北児童館について

・調査対応者

金沢市立城北児童会館　館長　羽場　政彦

・調査期日
令和５年８月４日（金）１０時００分～１１時００分

・金沢市の概要
人口　：４４６．０５５人
世帯数：２１１．４８７世帯

・調査目的
児童館は、１８歳未満のすべての子どもを対象とし、地域における遊びや生活の援助と子育て支援を行い、子どもの心身を育成し情操を豊かにすることを目的とする。

・調査内容
【城北児童会館からの説明】
昭和５４年（１９８１）に、日本電気の金沢工場跡地を取得し、昭和５６年５月開館する。金沢市内の児童館の状況は、小型児童館８館・児童センター２４館・大型児童館１館・児童クラブ２２館である。この城北児童会館は、職員１８名から構成されている。活動内容は、通常業務として、おもちゃ等の貸出、利用案内、平日行事・週末行事・季節行事・クラブ活動・子育て支援と活動している。

【質疑応答】
Ｑ　職員構成について
Ａ　常勤職員（正規職員）と非常勤職員とに構成され、特に常勤職員も５年間という縛りがある。長くても１０年しか職員として仕事することができない。

Ｑ　活動内容について
Ａ　週末行事の中におもちゃ病院があり市内から修理のおもちゃが集まっている。また、子育て支援コーディネーター相談が昨年度来館相談件数約１．７００件、電話相談件数約６０件、子育てに関する相談・遊び場遊びの教室の相談・入所や入園関係の相談、来館者数も昭和５７年度から毎年のように増加している。特にコロナの時は多くの来館者があった。
Ｑ　今後の課題について
Ａ　老朽化によるハード面の修繕費の確保が厳しい状況である。また、ほとんどが会任職員のため、任期付きであり継続的な人材確保が厳しい状況である。最後に教室やクラブ講師、ボランティアの高齢化が問題である。

【呉市での展開の可能性】
呉市においては、現在、児童館が市内に３カ所（宮原・二川及び大坪谷）あり、指定管理者である呉市社会福祉協議会が運営しているが、施設の老朽化が進んでい

ることや、少子化等の影響により利用者数が減少している。こうした中、二川児童館は、築５４年（昭和４３年度建築）が経過し、雨漏り等の老朽化が著しく耐震性が低いことから休館施設となり、令和５年４月からは両城小学校で実施されている。

今回の城北児童会館の視察を踏まえて、老朽化した施設の利用問題や廃校となっている施設の再利用も検討していきたい。